

全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。
- 児童生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力や生活に目標を持ち、また、それらの向上への意欲を高める。

2. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

3. 調査の対象

泉佐野市立長坂小学校 第6学年，全児童

実施児童数（ 51 人）

4. 調査の内容

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

- （ア）小学校調査は、国語及び算数とし、中学校調査は、国語、数学及び英語とする。
- （イ）出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- （ウ）調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」及び「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

イ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査（以下、児童を対象とする場合は「児童質問紙調査」、生徒を対象とする場合は「生徒質問紙調査」、児童及び生徒を対象とする場合は「児童生徒質問紙調査」という。）を実施する。

（2）学校質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査（以下「学校質問紙調査」という。）を実施する。

※平成29年度より、文部科学省から示される都道府県の平均正答率及び市町村の平均正答率は、整数となっております。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（国語）

1. 全体の傾向

・正答率が全国平均を下回っているものが多く、全国と比較して無回答率が高い。正答率の分布が広範囲に散らばっている。

平均正答率（本校 60／泉佐野市 62／大阪府 66／全国 67.2）

2. 学力状況調査より（本校正答率/全国正答率）

国語	特徴がみられた設問
<p>[話すこと・聞くこと]</p> <p>○必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることに課題がある。</p> <p>3- (1) 【インタビューの様子】の傍線部ア（～ということだと思いますが、合っていますか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する。 (58. 8/73. 6)</p> <p>3- (2) 【インタビューの様子】の傍線部イ（～というのは、どのような姿ですか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する。 (62. 7/74. 0)</p> <p>○目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。</p> <p>3 二 寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く。 (52. 9/70. 2)</p> <p>[読むこと]</p> <p>○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに課題がある。</p> <p>2 二 【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容とし適切なものを選択する。 (52. 9/67. 4)</p>	<p>[書くこと]</p> <p>○図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。</p> <p>1 二 【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く。 (21. 6/26. 7)</p> <p>[知識及び技能]</p> <p>○原因と結果など情報と情報との関係について理解することに課題がある。</p> <p>1 一 米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する。 (52. 9/64. 7)</p> <p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことに課題がある。</p> <p>1 三 (1) ア 【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す。 (いがい) (33. 3/52. 8)</p> <p>○日常よく使われる敬語を理解することに課題がある。</p> <p>3 三 敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する。 (47. 1/57. 6)</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
国語の勉強は大切だと思いますか。	88.5	94.2	◇	5.7
国語の授業の内容はよく分かりますか。	75	85.7	○	10.7
国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか。	78.8	83.9	◇	5.1
国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えを	71.2	76.8	◇	5.6

まとめていますか。				
今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。	74.5	80.7	◇	6.2
解答時間は十分でしたか。	35.2	64.1	○	28.9

- 問題の意図を読み取ることに課題がある。
- 複数の資料から情報を選び出すことに課題が見られる。
- 文と文の関係性を考えながら読むことに課題がある。
- 漢字を文章中で使うことに課題がある。
- 日常における敬語の使用に慣れていない。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（算数）

1. 全体の傾向

・正答率が全国平均を下回っているものが多いが、全国と比較して無回答率が低い。中間層が少なく、下位層が多くみられる。

平均正答率（本校 59／泉佐野市 59／大阪府 62／全国 62.5）

2. 学力状況調査より（本校正答率／全国正答率）

算数	特徴がみられた設問
<p>○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることに課題がある。 1（1）5脚の椅子を重ねたときの高さを求める。（80.4/93.5）</p> <p>○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることに課題がある。 1（2）椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く。（82.4/88.5）</p> <p>○台形の意味や性質についての理解に課題がある。 2（1）テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ。（51.0/59.8）</p> <p>○正方形の意味や性質について理解に課題がある。 2（2）テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く。（80.4/87.2）</p>	<p>○高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。 2（4）テープを直線で切ってきた二つの三角形の面積の大きさについて分かることを選び、選んだわけを書く。（15.7/20.8）</p> <p>○百分率で表された割合についての理解に課題がある。 4（1）示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ。（35.3/46.0）</p> <p>○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかをみる。 4（2）運動カードから、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める。（82.4/75.7）</p>

3. 学習状況調査より

質 問 項 目	本校	全国	10%○ 5%◇	差
算数の勉強は好きですか	73.0	61.4	○	11.6
算数の勉強は大切だと思いますか	98.1	94.2		3.9
算数の授業内容はよく分かりますか	82.7	81.2		1.5
算数の授業習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	90.4	93.3		2.9
今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。	84.3	80.3		4.0
解答時間は十分でしたか（算数）	86.3	84.5		1.8

○全国と比べて無回答率が低く（16問中11問が0.0%）、意欲的に取り組む姿勢が見られる。

○問題の意図を絵から読み取り、表や数字と照らし合わせることが難しい。

○図形の意味や性質を覚えられておらず、図形の違いを捉えられていない。そのため、系統性を意識して指導を行い、定義を復習できる機会をつくっていく必要がある。

○百分率で表された割合について理解できていない。そのため、基準量をかえて割合をとらえる等、多様な見方ができるように指導を行い、感覚を養う必要がある。

○言葉と数を用いて考え方を言語化し、記述することが難しい。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析（児童質問紙より）

設問内容種類別の全国との比較で差が大きく特徴のある項目

設問内容種別	本校の状況	本校 < 本校回答率 / 全国回答率 >
家庭生活の様子	<p>○基本的な生活習慣に課題がある。 （朝食，就寝・起床時間，ゲーム，SNS）</p> <p>○地域の方とのつながりを感じ，何かしたいと感じている児童が多いが，地域行事に参加する児童は少ない。</p>	<p>○朝食を毎日食べている。(88.4/93.9) ○毎日，同じくらいの時刻に寝ている。(76.9/81.0) ○毎日，同じくらいの時刻に起きている。(84.6/90.5)</p> <p>○地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている。(78.9/76.8) ○今住んでいる地域の行事に参加している。(32.7/57.8)</p>
家庭学習の様子	<p>○家庭学習に課題があり，全国を上回っている児童もいれば，下回っている児童もいて，差が大きい。(学習計画，勉強時間，わからない問題の対応など)</p>	<p>○家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(53.8/70.7) ○平日の勉強時間が ・ 1時間以上 (42.3/57.1) ・ 30分より少ない (34.6/16.0) ○土日の勉強時間が ・ 2時間以上 (15.3/24.7) ・ 全くしない (28.8/13.8)</p> <p>○家にどれくらいの本がありますか。(雑誌・新聞・教科書を除く) ・ 0～25冊 (50.0/33.4) ・ 26～100冊 (17.3/33.3)</p>
学校での学習の様子	<p>○児童は ICT 機器の活用は勉強に役立つと考えているが，授業内での ICT 機器の活用は全国に比べて少ない。</p> <p>○主体的に物事を解決することや自分の考えを伝えたり，工夫して発表したりできている。</p> <p>○英語の授業を意欲的にとりくんでいる。</p>	<p>○ICT 機器を週3回以上使用している。(25.0/62.4) ○学習の中で ICT 機器を使うのは勉強の役にたつ。(90.4/95.1)</p> <p>○自分の考えがうまく伝わるよう，工夫して発表した。(80.8/63.7) ○自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。(82.7/75.7)</p> <p>○英語の勉強は好きですか。(82.7/69.3)</p>

○教師が児童とともにあたたかい学級づくりを行うことや、人権総合学習で自分をふくめたみんなを大切にすることを低学年から学んできているため、自己肯定感があがっている。

○就寝時間が遅くなることで起床の時間も遅くなり、朝食の時間をとれなくなっている児童もいる。しかし、朝食堂が始まり、早めに学校に来て朝食を食べている児童も見られるようになっている。

○さまざまな家庭があり、家庭学習を行える環境が整っていないことや、家で予習や復習の習慣が定着していない状況になっている。放課後に行っている「わくわく学習」で復習や予習プリントを行っているので、参加率を上げていきたい。また「宿題ばっちりウィーク」で家庭に啓発し、連携をとっていきたい。

○ICT 機器の活用が全国に比べて少ない。さまざまな教科において、児童の思考する力を養うために、一人ひとり配布されている端末を活用していきたい。

○外国語の授業を英語専科の先生と ALT とですることによって、児童が意欲的に学んでいる。

本校の取組

◎これまでの取組

1. 基礎学力の向上

◇長坂タイム（始業前15分）のとりくみ

国語（漢字+α）・算数（計算+α）音声 読書 言語活動 日記

◇学習規律の確立

「長坂小！みんなの学習ルール」「聞きとり名人あいうえお」「話し方名人かきくけこ」「立腰・ゲーペタピン」（姿勢の保持）など適切な学習態度・行動を促す。

◇復習テストの実施（4月，11月，2月）

前学年までの既習事項を確認することで児童の実態把握をし，つまずきやすい単元を発見して，授業改善を行う。

◇長坂漢字博士検定の実施（令和5年度より）

希望者を対象に年4回（7月，9月，12月，3月）実施し，漢字学習の動機づけを高める。

◇認知特性別教材を使用した漢字学習

◇わくわく学習会

週1回放課後学習会（希望参加）を設定。集中して学習する姿勢を身につけ，算数・国語の基礎基本問題を解き，自分の課題を克服していく。また，応用問題に触れる機会をつくる。

◇読解力を高める授業

“説明文の部屋”を活用し，文章を構造的に理解し，筆者の主張や大切なことがどこに書かれているか理解できるようにする。

◇GIGA スクール構想に向けたICTの活用

各教科の様々な場面でICTを活用し，主体的・協働的な深い学びを推進する。

◇ユニバーサルデザインを意識した学習・教室環境づくり，授業づくり

見通しをもたせ集中しやすくするための環境や指導の工夫（前面黒板の壁面，一日のスケジュール，声のものさし，ハンドサイン，話し合いのルール，ICTの活用，視覚化）

◇「家庭学習のてびき」の配布

正しい家庭学習の進め方を示し，家庭学習の習慣化を促す。

◇「ばっちりウイーク」の設定

学習面と生活面について，子どもと保護者が一緒にチェックする週間を年3回設ける。

◇算数サポーターの活用

授業中の個々のつまずきに適宜対応できる個別支援をすすめる人材の活用。

◇指導改善・授業改善につながる校内研修の実施

授業者は提案型の研究授業になるよう授業観察のポイントを明確にし，参観者は自分ならどう進めるかを意識しながら授業を観察する。協議会ではそれぞれの教材観や指導観を話し合い，主体的に協議会に参加できるよう工夫する。

◎これからの取組

○長坂作文ルールブックを低・中・高にわけて作成する。作文用紙の使い方，作文を書くときに心がけたこと（内容・構成・表現）をまとめ，ルールブックを参考にしながら安心して書けるようにする。

○教職員一人ひとりが教科の系統性を意識して指導していく。まずは研究教科である国語科「書く活動」の系統表を配布し，当該学年までの学習内容を把握し，習得できていない場合は学び直しをしていく。

○既習の漢字や慣用句を日常のさまざまな場面で積極的に使っていけるよう工夫して指導する。

○ICTを活用した個別最適化の学習や実践事例の共有を進める。

○算数科で教科書のQRコンテンツを積極的に活用していく。課題が早く終わった児童がタブレットを使って動画を視聴するなど個別の学習を進めていくことで学力差にも対応していく。

○算数科では言葉や具体物，図表や式を用いて考えたり，説明したりする場面を多く取り入れる。

○基本的な生活習慣については，学校から家庭への啓発だけでなく，委員会活動を中心に学校内でも啓発を進めていく。